

能登半島における社寺の地理的分布と被災状況把握

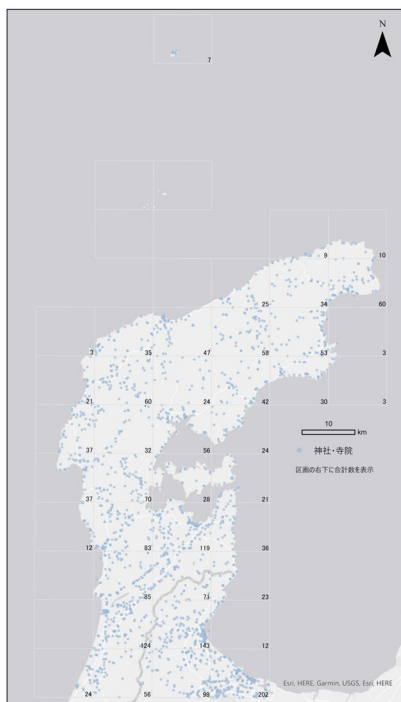
歴史都市防災研究所 GIS 研究グループ

要約版：能登半島を対象に、地形図から抽出した神社・寺院（計 1,918 件）の分布と震度分布を重ね合わせると、半数を超える神社・寺院が震度 6 弱以上に、そして全体の約 4 分の 1 が震度 6 強・震度 7 の揺れに見舞われたと考えられる。地理的な分布をみると、特に半島西部では 6 割以上の神社・寺院が震度 7 の揺れを受けたことや、震源に近い半島北東部では神社・寺院が立地する海岸沿いに震度 7 の分布域があり、被害の拡大が危惧される。

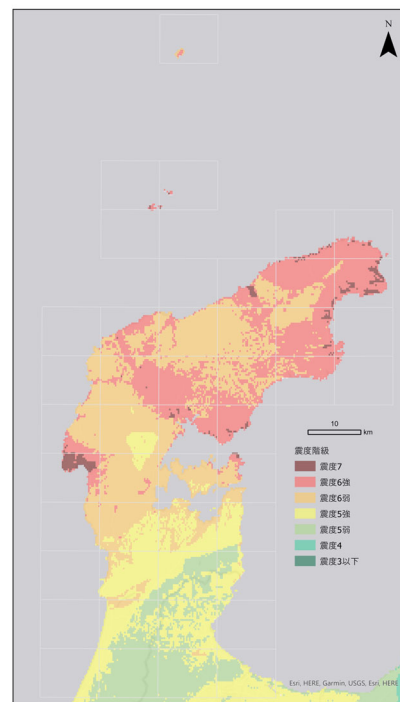
詳細版：能登半島を対象に、国土地理院発行のデジタルの地形図から抽出した神社・寺院（計 1,918 件）の分布を、第 1 図に示す。このような神社・寺院の多くは、地域の歴史・文化を語り継ぐ重要な共有財産としての側面をもつ。くわえて、地域の身近な神社・寺院は、心の拠り所であると同時に、祭礼・行事を通じて、地域コミュニティの結束にも寄与してきた。地形図に掲載された神社・寺院の規模や建立年はさまざまではあるが、古くからの木造建築であるものも多い。またその立地は、海岸沿いのほか、内陸部にも広く分布していることがわかる。

2024 年 1 月 1 日に発生した令和 6 年能登半島地震は、震源に近い能登半島北東部と半島西部を中心に震度 6 強・震度 7 が記録された。第 2 図に、地震の震度を面的に推定した地図を示す。震度分布は、震源からの距離や地形条件などを反映する。ここでは、神社・寺院の被災状況を把握するために、第 1 図と第 2 図の地図を重ね合わせる簡便な方法で、各神社・寺院の立地場所の震度を求めた。それらをメッシュ区画ごとに集計した結果が第 3 図になる。能登半島の区画内の範囲に限定されるが、神社・寺院全体（1,918 件）の半数を超える 1,008 件が震度 6 弱以上に、そして全体の約 4 分の 1 に当たる 496 件が震度 6 強・震度 7 の揺れに見舞われたと考えられる。地理的な分布をみると、半島西部に位置する志賀町で震度 7 と推定されており、そこでは同区画内にある 6 割以上の神社・寺院（23 件）が震度 7 の揺れを受けた可能性がある。また能登半島北東部ほど震度 6 強以上の割合が高く、特に神社・寺院が立地する海岸沿いは震度 7 の分布域に当たり、被害の拡大が危惧される。

地震による神社・寺院への被害は、本殿・本堂などの建築物の倒壊以外にも、鳥居や灯籠、墓石、庭園などにも及ぶ。地震発生後、しばらくして一部の文化財の被害が報道されているが、地域の身近な神社・寺院の被害状況に関しては、十分な調査を実施できる状況にはなく、依然として全容がわかっていない。今後、地域の復興のためにも、神社・寺院の被災状況の調査が必要となる。

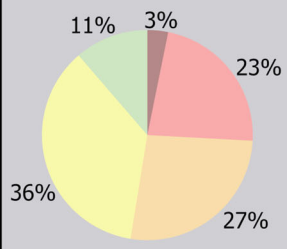


第 1 図：地形図上に記載される
神社・寺院の地図記号の位置
出典：数値地図（国土基本情報）

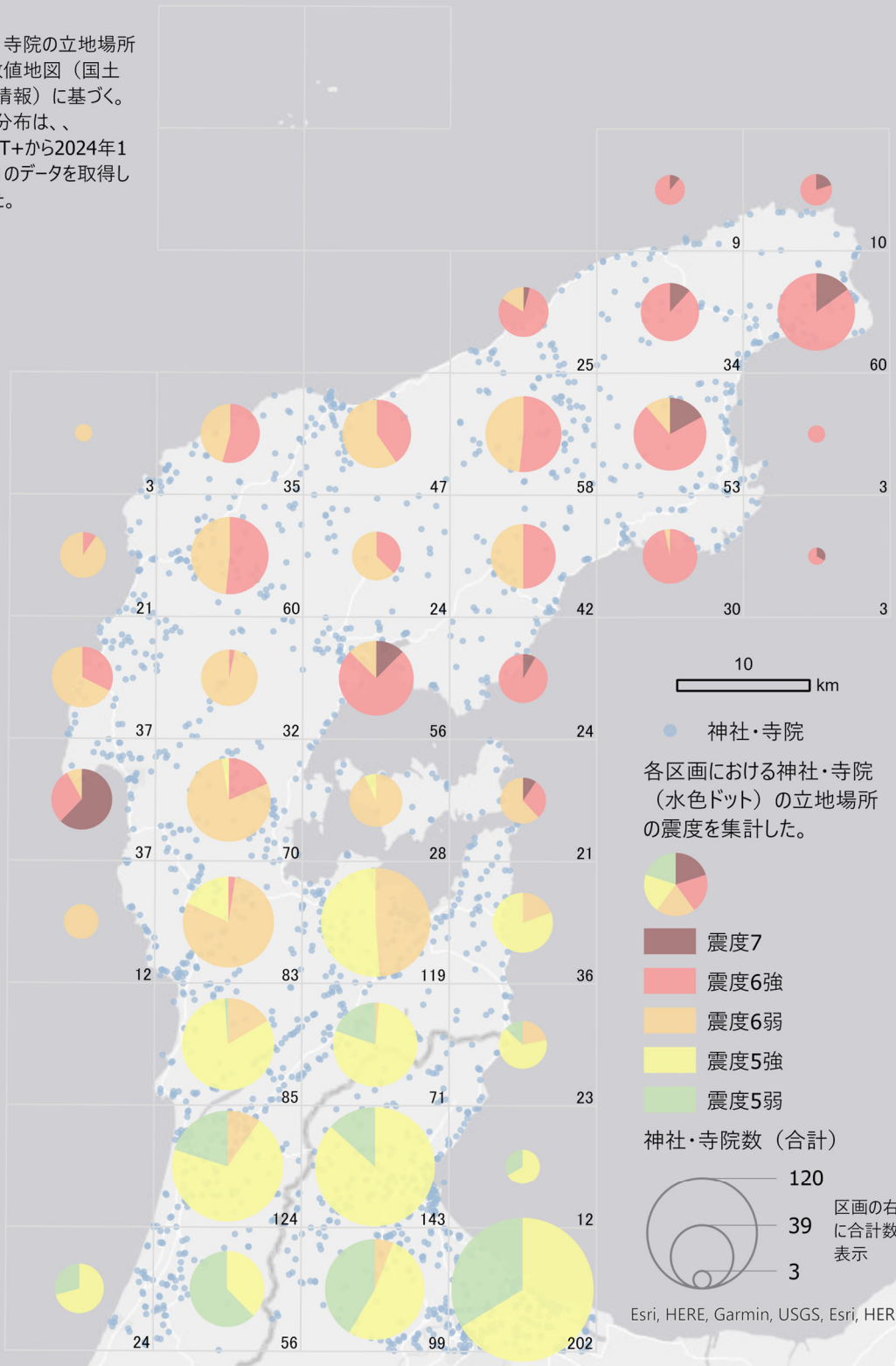


第 2 図：震度分布図
発生時刻 2024 年 1 月 1 日 16 時 10 分
出典：QUIET+（地震動マップ）

令和6年能登半島地震 神社・寺院の震度別集計



神社・寺院の立地場所は、数値地図（国土基本情報）に基づく。震度分布は、QUIET+から2024年1月1日のデータを取得し利用した。



第3図：地域別にみた神社・寺院の被災状況把握（神社・寺院の震度別集計）
出典：数値地図（国土基本情報）及び QUIET+（地震動マップ）